

プリムラ山の会（通巻 77 号）2009 年 8 月 5 日発行 発行人：大坪邦久
編集 / デザイン：ミズノデザイン 発行所：東京都八王子市散田町 3-38-6B
primula.ac@gmail.com <http://primula.mizunodesign.com>

Primula

PRIMULA CUNEIFORIA BULLETIN

77



プリムラ山の会

C O N T E N T S

77号特集今年(今年度)目標の1本	02
In a Shot 光るリッジ(谷川岳・東尾根)	03
積雪期のマイナールートも楽しいワン U^I^U その6	04
巻機山 [山スキー]	05
月山～肘折温泉スキー090417～18	06
春から夏への山行 (1) 月山 - 肘折温泉 山スキー & 石跳沢・市瀬 江利子	11
春から夏への山行 (2) 御前ヶ遊窟	12
月山：「邂逅の森」ツアーその2 [山スキー]	13
劔岳 赤谷尾根	14
劔見るなら、やっぱり赤谷尾根！！－体力使い果たしました－	21
涸沢から北穂・奥穂	24
富士山スキー win & lose [山スキー]	27
なほみさんの いつまでたっても うまくならない クライミング日記 (29)	29
山行一覧2009年1月～3月	35
編集後記	36

77号特集 今年（今年度）目標の1本

今年は塩見岳の蝙蝠尾根
ルートを、もう一度挑戦
したいと考えています。

(Y里)

[無雪期] 槍ヶ岳北鎌尾根／八ヶ岳小同心クラック

[積雪期] 八ヶ岳石尊稜／赤岳西壁主稜

(T)

エルキャップの1本が完登できたら、戻れる
ものならアルパインに戻り、冬の谷川登り
たい。目標は南稜と右壁(まあ、たぶん無理
でしょう)

ほか、ここ1、2年クラックばかり登っていたので11～12台の
スポーツルート登りたい。ブルースパワー、スキゾフレイニー(小
川山)オーバードライブ(城山)ノースマウンテン(二子山)足は出し
ても手は出さず(池田フェイス)八月革命、ニルバーナ(天王岩)黒
山賛歌(聖人岩)三日月ハング、エイハブ船長(小川山ボルダ)デッ
ドエンド(御嶽ボルダ)(どこが1本なんだ?)

(M野)

冬又は春の利尻岳

冬の羅臼岳

冬の塩見岳&聖岳

やっぱり冬山が好きらしい。。

(憧れも含む)(I瀬)

谷川岳一ノ倉沢の
クラシックルート「ニルンゼ」
いよいよ登るときが来た。

(A井)

小槍のクラシックルート。

なかなか行く機会がなく、しかも何と組み
合わせていくのがいいか、なかなか思いつ
かない。北鎌行った時に登っておけばよか
ったなあ。あとは春かなあ。(H鹿)

冬の一ノ倉沢・二ノ沢右壁 です。
もう昔から、
毎年おもってはいるのだけれど！

(K堀)

山岳スキー：日本オートルート

そもそも入会した目的です

室堂～槍～新穂高または上高地～馬場島

(K原)

In a Shot 岡孝雄



光るリッジ(谷川岳・東尾根) 2009年4月4日撮影

午前中やっと動き出したロープウェーに
乗る。先行者のトレールに助けられ、天神
尾根より肩の小屋に入る。

この時期にしては相当ひどい荒れ方だっ
たようで、トマノ耳にはエビの尻尾が大き
く発達し、多いに写欲を誘われ気をよくし
て夕陽を待つが、光が弱くなってしまい今
一だ。

翌朝雲が多いものの、寸光が射すのを期
待しつつ山頂にて待機。春陽に染まる雪稜
にはならなかったが、露出を切り詰め「光
るリッジ」を何とか表現できた。肩の小屋
が開放されているから撮影できた一枚であ
る。

積雪期の東尾根はまだ登っていなかった
なあ一等と、想いだしてもしょうがない事
なんかを考えながら下山した。

積雪期のマイナールートも楽しいワン U^ェ^U その6

－飯士山・鋸尾根の巻－ 初鹿 裕康

【コースタイム】

4/4 晴/曇 越後湯沢(10:18)－神弁橋(10:32)(10:39)－第1休憩所 (11:35)
－尾根の頭(12:48)(13:01)－最後のアップダウン手前(15:07)－岩原分岐付近
B.P(15:45)

4/5 曇/曇 (8:19)－飯士山(8:49)－B.P(9:05)(9:40)－リフト上
(11:26)(11:38)－越後湯沢(12:22)

【パーティ】初鹿 裕康、平 真里

ノーマルルートでないちょっとバリエーションモードで、登攀具不要のルート。なかなか思いつかなかったが、飯士山・鋸尾根があるじゃん自分の頭の中の引き出しから、引き出してきた。

登山口は多少雪が残っている程度なのだが、そのために正規の登山道が雪に埋もれてたりしてちょっと、迷いやすい。平ちゃんはわざわざバリエーションルートにして楽しんでいた(*^_^^) 気温が高いので、とにかく暑い、さらに急登でプラブーツは疲れる。第1休憩所と看板のあるところでのコースタイムでは残り2時間30分で頂上に着くらしい……。尾根の頭まで結構な登り、何度か休憩を入れつつたどり着く。ここから先は雪がまあまあ付いているようだ。しかし腐れ雪。ちょっと滑ると下の落ち葉の層と雪の層が分離してしまうので、なかなか手ごわい。アイゼンを着けると団子になりそうなので、ノーアイゼンで進むが、雪が断層になっていて、ちょっと足を滑らすと雪の断層ごと下に滑って行く。自分の身体ごと持って行かれそうでちょっと怖い。トラロープが随所に張ってあるが、肝心なところは切れて短くなったりする。結構急な登りが続きもう終わりかと思ったころに、まだまだ先が見えた。結構なアップダウンの雪稜って感じ。ここでアイゼンを履き、ひそかに持ってきていた補助ロープを使

って下降する。登りよりも下りのほうがはるかに怖いです。そんなアップダウンを繰り返していくと、ようやく岩原との分岐に着く。稜線に飛び出したとたんに、リフトの終点駅が見えるのには、一寸興奮め。でも、スキー場の上部はすでに閉鎖されていたみたいなので、まあ、許す。ちょっと下ったところで、雪を整地して泊まる。この辺はスキー場側に雪底が張り出しているの、そこを使って雪洞も掘れそうだし、絶好の雪上訓練の斜面もある。結構いいかも。今日の夜は雨らしい。

翌日、朝から晴れの予報は山の上は関係ないらしく、ガス。夜気温が下がって曇っぽい雪になったので、飯士山に向かう雪も硬くて結構楽に歩ける。頂上らしきところの標識を掘り出して、確かに頂上の確認をする。テン場からの下りも結構侮れず、ナイフリッジもどきのところもある。スキー場の中間部はまだ営業しているらしいのだが、そのリフトに着く寸前まで、走っていけるような場所はなかった。なかなか楽しめました。スキー場で密かに持ってきたそりを使ったが、ちょっとだけ楽しめたものの、雪が重いので結局持って歩く時間のほうが長かった。最後にふきのとうをゲットして、今晚の酒のつまみに持って帰ったのでした。

巻機山 [山スキー]

北原 浩平

(日時) 2009年4月4日(土)

(メンバー) 佐藤・北原

(日程)7:45清水集落→12:30巻機山山頂→13:30ニセ巻機→15:00清水集落



巻機山中尾根



ニセ巻機への登り返し



佐藤さん



上越の山々

例年、上越方面はなかなかチャンスに恵まれない
守門岳しかり、万太郎しかり、だが、やっと巻機山に行くことができた
数回行っている佐藤さんと一緒だが、初めてシールで井戸の壁を登れたそう
なかなか距離もあり登りがいいもある大きい山だ
山頂から中尾根を滑ったが、雪質がいまいちで快適には滑れない
最後の井戸の壁もブッシュの合間を選びながら難儀しながら滑り降りた

月山～肘折温泉スキー 090417～18



三春屋の源泉風呂

今年に入って、1月からの3カ月間は緊急の重い仕事が入り残業の連発。3月31日、学経さんの意見も入れた検討報告書をなんとかまとめあげ退職辞令をもらった。定年退職とは違い、辞令の文面は「辞職を承認する」という味気ないものであった。でも、よく36年間勤め、また首にならずに勤めたものだ。死にぞこないもした。またこの間、マッキンレー、ディラン、マウント・クックと長く休ませてもらい人一倍楽しんでできた。最近になってカラコロム・フンザのミナピン氷河上を悠然と飛ぶ「パルナシウス」を思い出し無性に採りたくなっている。

さて4月、気にする仕事も無くなり、イザ山！

今回の山行は、2月の武能岳西尾根を都合でドタキャンしているので、谷川集中山行以来6カ月ぶりだ。そんなことから、運動不足でみんなに迷惑を掛けないようにしながら目一杯楽しむこととして参加。北さんの気遣いから個人装備以外はほんの僅かで、これがまたプレッシャーになったちゃいました。

月山、これまで何回(15回位かな)となく春に姥沢近辺まで来ており、馴染み深い場所。春は、スキーヤーが沢山居て、いつも家族と一緒になので滑りに行きたい気持ちを押し殺していた。今回の山行は、自分の中では「退職記念」と決めて

浅井 邦夫

【日時】2009・4・17～18
【メンバー】L北原、初鹿、山里、市瀬、浅井

いた。また、山頂の神社にお参りするのも目的にしていた。

4月16日夜、集合場所の西武新宿線井荻駅まで運転が上達した娘に車で送ってもらう。これは楽だ。今回の山行は市瀬号で行くため、北、山、初、そして私の4人が乗せてもらって出発する。オレンジの車に誰かさん(カーナビなどの使い方を熟知している同乗者)はお世話になり過ぎて「感謝状」をあげても良いのでは・・・？

東北道の途中で心配していた空から雨、山形道の西川インターで下り「道の駅」で仮眠と決める。建物に大きな軒下があり犬走到にテントを張って眠る。

翌17日朝、前夜からの雨はやんだが、山はガスに包まれている。天気はイマイチ。慌ただしく身支度と朝食をして道の駅をあとにし「にくいやつ」(古いか)で姥沢へ向かう。姥沢に着いても天気は回復しない。天気予報では回復傾向で昼には快晴だと言うのに。駐車場から少し雪道を歩きリフトに乗り月山スキー場へ上がる。風とガスは一向に無くならない。平日だが時期なので後ろから女2男1の山スキー3人パーティーが上がって来る。同じルートなのか。別の先行パーティーは鍛冶小屋下に見えるが動きが遅い。スキーにシールを貼り、姥ヶ岳へは登らずトラバー

月山～肘折温泉スキー 090417～18

浅井 邦夫



1、姥沢小屋前をリフトへ

スルートで牛首を目掛けて出発する。(写真1)

雪質はまずまず、牛首付近までは快調に進むが、鍛冶小屋付近になると西風がまともに吹き付けガスで視界が悪い。石室の様な鍛冶小屋は、雪に埋もれているようで視界の悪さも手伝って確認できなかった。なだらかな稜線に出ると更に風が強く視界も悪い。頂上小屋を横目で見て神社まで行く。神社の建物の東側で視界が良くなるまで風を避けながら待つ。1時間以上待つが一向に天気は回復しない。待機の間山頂の三角点を見に行ったり、月山神社にお参りしたり、(写真2)と時間をつぶすがガスは切れない。待つのに飽きた頃、時折ガスが切れるようになってきたためシールを剥がして滑降開始。神社から頂上小屋方面へ

3、山頂小屋下でルート確認



2、月山山頂神社

戻り気味に滑りはじめるが、下る方向を見極められない。(写真3)10分程が経過した時ガスが切れ始め、目指す千本桜や遥か彼方に念仏ヶ原、そして泊まる予定の避難小屋も見え始める。

うわー！回りを見渡すと一面が大雪面で物凄い。急に気分も上向き。5人が思い思いに自分のシュプールを付けまくりで滑る。(写真4)千本桜は、見廻したがどう見ても桜ではなくダケカンバだ。本数も千本など無く、沢山固まって生えている意味なのか。千本桜付近で先行パーティーのシュプールを発見する。先行パーティーは、3人の様だ。全然ためらうこと無く斜面を滑り降りている。その後の温泉までのコースでも同様であった。この超大な雪面の滑走は、雪質もそこそこであったた

4、月山東面の大雪面





5、千本桜下のみんなのシュプール



6、立谷沢橋～念仏が原への登り

め、スキーが上手になった様な気分で最高の滑りができた。(写真5)足が疲れ始めた頃、立谷沢橋に着く。沢にはスノーブリッジがまだ掛っているのですんなり対岸に渡れた。ここで素敵な滑走の余韻に浸りながら大休止。

谷底から念仏ヶ原へのルートは良くできたもので、オムスビの様に見える大岩を右から巻いて行く沢筋をシール登行する。(写真6)最後が少しきつい登りとなる。登りきると、ほぼ平らな念仏ヶ原の南端で、雪原が延々と広がっている。小屋は見えない。雪原を北東方向へ縦断するが結構距離がある。(写真7)小屋はしっかり雪から出ており、外目はボロイが中はまずまず。2階建てで2階は先行の3人パーティーが陣取っており、私たち

は必然的に1階となる。窓が少ないため薄暗い。先行パーティーは、何回も来ていて様子を良く知っているのだろう、灯油を持って来たと言ってストーブを点けていた。

さー待望の夕食。山ちゃん定番の「ゴーヤチャンプル」美味しかったです。前回の山行ではズッキーニを使ったようだ。今回はゴーヤにモヤシも持って来た、と自慢していたが、意外やクレーム。私は例によって後半は酒の酔いで居眠りとなる。寝床は、小屋の敷布団を敷いてその上に寝たので快適であった。でも一人、ホコリで体調を崩すのが嫌と言って離れて寝ていた。

18日朝、皆が用足しに順次外に出て行く。天気

7、念仏が原を避難小屋へ



8、避難小屋前で月山バックに記念写真



9、小岳への上り



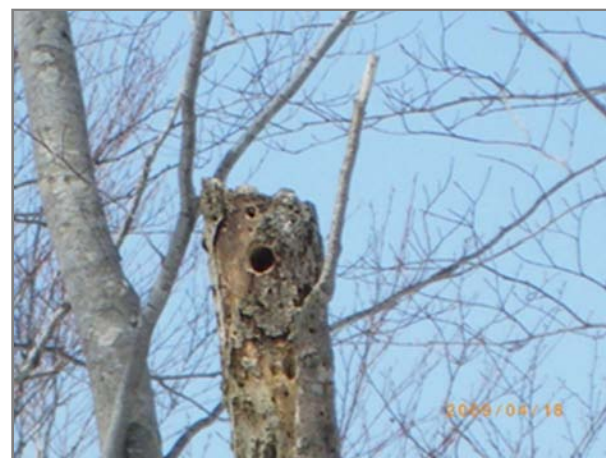
10、小岳より鳥海山

が良いので月山をはじめ、回りの眺めを満喫しながら清々しくなって戻ってくる。2階のパーティーは早々出て行った。私たちはと云うと、ゆっくり起床し、朝食を摂り、乾かなかったシールを貼って記念写真を撮り出発する。(写真8)小屋の裏斜面を右上気味に登ってゆく。左後ろを見返すと月山が綺麗だ。尾根に出て更に登って行くが、(写真9)小岳のピークをパスしてトラバースしたようだ。月山は見えなくなったが鳥海山がどっしりと目の前に聳えている。(写真10)この次に行きたい山だ。ここで大休止と合わせ、小岳の山頂を踏もうとしたがブッシュがひどく断念する。

今度は下り、ちょっと滑ると国立公園区域の境を示す看板が雪原から出ている。避難小屋から

2.3km来たようだ。温泉までは11kmとも書かれている。ここからは、赤砂山方向への緩やかな下り。しばらくのんびりと滑ってから、(写真11)今度は雪の斜面をスキー担いで100m程登る。ちょっとしんどい。登りきってまたまた尾根上を滑り、しばらく行くと左側に小さい池が二つ程出現した。そこを過ぎてしばらく行くと次の尾根にぶつかり30m程スキーを持って尾根上まで登る。大森山へ続く尾根だ。尾根にはイワウチワがピンクの綺麗な花を咲かせていた。カタクリも芽を出しているが花は未だだ。大森山へ突き上げる所で大休止。登路に雪がまったく無いので相談の結果トラバースすることとなる。スキーを担いで進むが、ブッシュなどに引っかかってしゃがんだり、結

11、キツツキの造形「ヤーホー」



12、林道を肘折温泉へ





14、夕食

構消耗戦になる。夏道が所々出ている。それなりにトラバースを満喫？した頃に下り方向の尾根に辿りつきスキーを履く。傾斜があるのと樹林の木の間隔が狭いので衝突しないように神経を使う。しばらくすると更に傾斜が出て樹木も落葉樹からスギ、ヒノキの針葉樹林になる。激突しないように斜面をクリアーすると、斜度が落ち、林道の終点に飛び出る。

後は林道をスイスイ滑るだけ、と思いきや、何故か道は下って無く水平か上りの様で滑れないため意外と疲れる。(写真12)でも雪が無かったら延々と歩くこととなるので、贅沢は言えない。麓が近くなって、林を滑り降りるチームと林道を忠実に下りるチームに分かれる。山、浅は林道コー

スをとる。さすがに林コースは早く麓ではかなり先を滑っていた。

最後の崖を下るとやっと待望の肘折温泉郷に出る。出た所のすぐ側には肘折で数少なくなったこけし職人の工場(ちょっと見学するんだった)があった。坂を下り今日の宿を探しながら温泉街へ。川沿いでなく、メインストリートに面した「三春屋」を苦勞して見付け楽しかった山行を終えた。(写真13)(写真14)

19日、新庄から宿までレンタカーの回送をしてもらい「にくいやつ」を姥沢へピックアップしに戻る。最短コースは未だ雪で通行止めなので尾花沢、東根、寒河江と南を大きく回って姥沢へ。遠い。天気は最高で北、初、市の3名は、再度姥ガ岳～自然博物館までを滑ると云うことで出掛けて行った。私は、自然博物館の見学のため、レンタカーを自然博物館まで回送することとした。山ちゃんは、良く分からないが、滑りに行かないので私と一緒に「にくいやつ」の回送役となる。自然博物館は、ツアー客でごった返していた。また、残念ながらビジターセンターは未だ閉鎖中であつた。しばらくして3名が合流、レンタカーを山形駅前で返し、休日どこまで行っても1000円を使って帰路についた。

春から夏への山行 (1) 月山 - 肘折温泉 山スキー & 石跳沢

市瀬 江利子

山域：東北／月山－肘折温泉
日程：2009年4月17日(金)-4月18日(水)
4/17：姥沢-月山リフト-月山-念仏が原避難小屋
4/18：念仏が原避難小屋-肘折温泉
4/19：月山リフト-姥ヶ岳-石跳沢滑降
1/25000地図：肘折・立谷沢・葉山・月山
メンバー：北原浩平、浅井邦夫、初鹿裕康、山里守弘、市瀬江利子



念仏が原

月山から肘折温泉へのルートは素晴らしいと言う記述が多く、行ってみたい一本だった。肘折温泉から姥沢への車の回収手段が一番面倒な点だったが、最終的には肘折温泉でレンタカーを借り、回収に向かうことになった。これら全てをアレンジしてくれた、北原さんには本当に感謝です。

ルートはやはり評判通りの素晴らしいルートで、特に月山頂上から千本桜へと滑る広大なカールの斜面は、言葉では言い尽くせないほどの開放感で、なんだか笑ってしまう。滑りたいけど、もったいなくて、何度も何度も立ち止まりながら滑った。千本桜からは尾根上を滑る。若干狭くなるが、特に難しい箇所もなく、雪も安定していたと思う。そして、念仏が原までを登り返すとそこは広大な雪原で、ここから後ろを振り返るとさっき滑ってきた月山の斜面が迫ってくる。すごい高低差だ。

翌日、念仏が原から肘折温泉までのルートは、思っていたよりもルートファインディングの難しいルートだった。予想に反して赤布の数はほぼゼロに等しい。前に他パーティのトレースがあったから良かったものの、私達だけでは、迷ってしまい、明るいうちに肘折温泉には着けなかったのではないかなと思う。肘折温泉では贅沢に宿に泊り、美味しいものを食べ、温泉を満喫した。

翌日、車を回収しに姥沢へのロングドライブ。天気は快晴。姥沢では浅井さん、山ちゃんに車を回してもらい、残り3人は最後にもう1本、石跳沢を滑ろうと、リフトへ向かう。このルートは山スキーとゲレンデスキーの美味しい所取りしたような、楽な登りに、広大な斜面を滑れる、楽しいロングルート。全く危ない箇所もなく、安心して、久しぶりに飛ばした。雪がずっと繋がっており、ネイチャーセンターまでを滑り降りることができた。最後の最後まで月山を満喫でき、満足の3日間でした。

春から夏への山行 (2) 御前ヶ遊窟

市瀬 江利子



遊窟の岩場

山域：越後
日程：2009年6月20日(土)-6月21日(日)
1/25000地図：安座
メンバー：初鹿裕康、市瀬江利子、平真里

独特の景色の中のスラブを登っていくルート。登山靴でも登れるとの記述もあるが、上のほうは一部傾斜がありクライミングシューズのほうが安心。ルートはスラブとブッシュ帯を絡めて登っていく感じだ。赤テープが豊富にあり、ブッシュ帯はほぼ沢の捲き道のように。もう少しスラブ帯を真っ直ぐ登って行けるルートだったら、爽快感が増したかなと思う。

帰りは尾根上のルート。鎖場が5-6箇所出てくる。しかも結構長い。尾根を降りきり、林道終点に置いた車へと向かう。さて、ここから明日登る予定の霧来沢もうがけ沢は、直線距離では

すぐそこなのに、車で行くとなると、この山岳地帯をぐるーっと1周する必要がある、結構な距離だ。今回こそ、もうがけ沢に登りたいと思っていたが、翌日は予想に反して雨の予報。明け方からすごい雨が降り出した。もうがけ沢は諦めて、遅い朝食を取っていると、雨が止んできた。とりあえずもうがけ沢の出合まで行き、暫く竿を垂らしてみるが、まるっきり当たりはなし。諦めて帰ることにした。

次回もうがけ沢に来るときは、やはり、ここをメインに置いて来なければ。でないと、どうやら登らせてもらえないらしい。

月山：「邂逅の森」ツアーその2 [山スキー]

北原 浩平



山頂小屋にて



慎重に下る

(日時) 2009年4月17～19日(金～日)
(メンバー) 北原・市瀬・初鹿・山里・浅井
(日程)
17日：10:30姥沢→11:00リフトトップ→13:00月山山頂14:15→千本桜
15:15→17:00念仏小屋
18日：9:15念仏小屋→10:15小岳10:45→11:45乗越→12:15猫又乗越13:00
→14:00大森山コル→15:30肘折温泉

一昨年の森吉山に続き、「邂逅の森」ツアーその2として月山から肘折温泉への山スキークラシックルートを計画した。小説では肘折温泉から月山へ向かうのだが、その逆コースを辿った二本の報告があるので、一番の感じたことを記述する。

17日

月山上部はガスに覆われ強風が吹いている。一時間以上、天気回復をまったが良くならない。念仏小屋までの時間を考え、磁石で方位を測り慎重に滑り始める。100メートルほど下ると一気に視界が開け始める。風がガスを追いやり、まさに大雪原の名に相応しい広大な斜面が出現した。ブレイカブルクラストの雪面をスキーで切る快感がほとばしる。こんな瞬間があるから山スキーはやめられない。



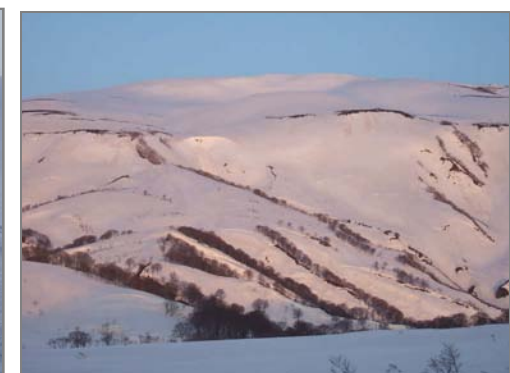
笑顔



大雪原が姿を現す

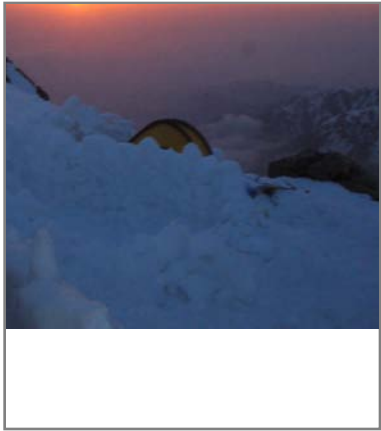


ブレイカブルクラスト



朝焼けの月山

劔岳 赤谷尾根



今年のGWはどこに行こうか？と山帰りの車の中で意見を出し合っていたら、赤谷尾根の話が出た。どんなルートかと地図を見たら、一目見るなり、気に入ってしまった。早月と劔を眺めながら登れ、しかも、まだ行ったことのない、大窓、小窓、三の窓、全てを網羅できるコースだ。これにあわよくばチンネ左稜線を付けようというのだから、これは、絶対に行ってみたい。冬の早月に一度は行ってみたいと思っていたけど、それよりも魅力的かもしれない？ということで、私はこのルートに飛び付き、GWの予定は決定。ただし、いかんせん長いルートだ。重荷と膝と体力の勝負となる。

5/1(金)：池袋発 (23:00) = 高速バス

池袋に到着。深夜バスでの山行は久しぶりでわくわくする。もちろん、予約ははっちゃん担当。いつもいつも感謝です。夜食やお酒を買って乗り込むが、車内はかなり静か。迷惑にならないようすぐに眠りに着くことにする。朝までぐっすり眠ることが出来た。

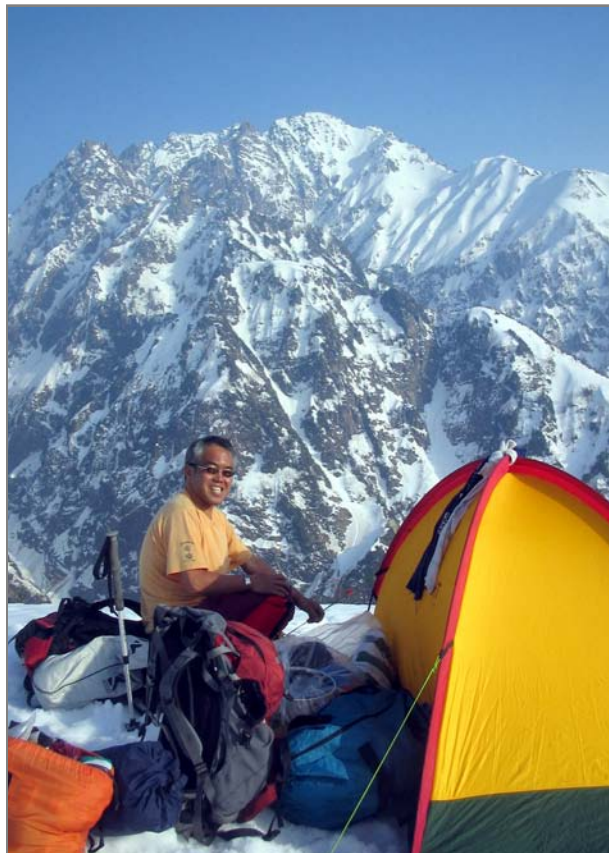
5/2(土)

富山 (5:35) (6:18) = 上市 (6:42) = 馬場島760m (7:30) (8:30)-赤谷尾根B P 1800m (16:30)

GWなので、バス到着が遅れるかもと思って

市瀬 江利子

山域：北アルプス 劔岳
日程：2009年5月1日(金)-5月6日(水)
1/25000地図：劔岳
メンバー：初鹿裕康、市瀬江利子



初日のテンバ。後ろは劔岳に小窓尾根

いたら、本当に遅れた為、富山から上市までを予定より一時間後の電車に乗る。予約していたタクシー会社に電話を入れ、遅れを伝える。上市でタクシーに乗り込み馬場島へ。計画書を出し、ひと通り馬場島を見学後出発。荷物もある程度軽量化したが、4日分の食料とチンネ用の登攀具とラバーソールまで持って、ここ数年で一番思い荷物だ。よたよたと、林道を歩き、赤谷尾根の取り付けへ向かう。

橋を渡り右手の林道を白萩川沿いにどん詰ま

劔岳 赤谷尾根

市瀬 江利子



こちらは大日岳

りの堰堤まで行くと、左手に尾根への登り口があった。ここを登ると踏み後があり、ここから、藪の急登が続く。とにかく荷物が重い上に急登の藪で、汗が噴出す。休む箇所も無いような感じだ。1500m辺りからようやく、雪が付き始める。雪と藪とを交互に登り、やっと藪から開放されると、真正面に劔岳、右手には早月を見ながらの稜線となる。

6時間ほどで着く予定だったが、8時間かけて、1800m付近の平地に辿り着いた。3人のパーティが TENT を張っていたので、もう少し先に進んで TENT を張ることにした。

ここのテンバは絶景だった。早月に劔、大窓、小窓、三の窓と全てが見渡せる。その後ろには大日岳。そして、背後には猫又山が聳えている。絶景を満喫した幸せな夜でした。

5/3(日)

B P 1800m (6:10)-赤谷山2260m(8:30)(8:50)-白萩山 (9:15)-赤ハゲ (10:30)-白ハゲ2387m (11:00)-大窓 (13:00)(13:30)-大窓の頭(15:00)-池平山北峰2561m直下 B.P (17:00?)

さて、今日は長い一日の始まりだ。予定では三の窓までだが、これはかなり楽観的な見方。で、小窓までかなあ、と言いつつ出発。まずは



赤谷尾根上部

赤谷山を目指して、稜線に行く。相変わらずの絶景だ。一箇所ある岩場はブッシュを掴んで強引に登ると、赤谷山はすぐそこだ。ここからは劔岳が大きく聳えるように見える。赤谷山頂上には大勢の登山者がいた。ブナグラ谷を詰めて、コルに TENT を張って、ピストンで来ているとの事。どうりで、みんな荷物が少ないはずだ。

私達は劔を目指して出発。白萩山は東側の雪面をトラバースして捲く。その後、赤ハゲは雪稜に登り、最後は雪壁を直登。白ハゲは西面のガレ場は雪も付いていないガレ場だ。はっちゃんは一旦下へ降りて、細い FIX ロープでよじ登る。私は上から行くも、岩は触れると崩れてしまうくらいのガレガレで、はっちゃんに F I X

赤谷山より劔をバックに



劔岳 赤谷尾根

市瀬 江利子



大窓へのトラバース



小窓への最初の急な草付

ロープをスリングで延長してもらい、回してもらう。支点が心もとなく、結構怖い思いをした。

大窓のコルへの下りは最後のところが急だ。ここは西面に一旦下り、雪面をダブルアックスでトラバースした。傾斜も高度感もあり怖い。大窓で大休止を取る。大窓から大窓の頭までを、私たちは、ちょっとなめていた。すぐに着くだろうと思っていたが大間違いで、標高差300mがかなりきつい。霧の中を登り始め、途中で霧が晴れてきた時は、霧の合間から、白ハゲ、赤ハゲの頭が、顔を覗かせ、その奥には毛勝の山並が雲の上に顔を出し神秘的だった。

大窓を越えるとすぐに大きな岩場が正面に聳える。正面の岩場にFIXが見えるがこの直登は難しそうだ。西面はガレていてこちらも無理だ。で、東面の雪面をトラバースし、シュルントの開いた微妙な雪を伝って越えた。今日は小窓までと思っていたが、時間的に無理そうだ。ここまで予想よりも時間がかかったので、この辺りから今日のテンバを探すことにする。しかし、なかなかテントの張れそうな箇所は出て来ない。天気も悪く、薄暗いせいもあり、陰鬱な感じの岩場や雪壁が続く。

ようやく池平山北峰を越えてすぐのコルにスペースを見つける。この日は後立山連邦の山並みを見ながらのテンバとなった。

5/4(月)

池平山北峰直下B.P(6:30)-小窓(8:50)-小窓の王(11:00)-三の窓BP(12:20)

相変わらず、天気はどんより。まずは池平山南峰へ向かって左の雪壁を登る。見た目ほど急では無かった。南峰から小窓への最初の下りは急な草付を慎重に降りる。そこからいくつかのアップダウンを越え、小窓への最後の下り。ここはブッシュ支点で2回の懸垂で降りる。そして、小窓の頭への長い長い登り返し。コルへ出ると、小窓尾根を登ってきたパーティが小窓の頭に現れる。私たちは小窓の王に向けて急な雪壁を登る。三の窓へは急な雪壁を慎重に下り、途中にある懸垂支点からダブルロープで1回の懸垂後トラバース。コルへと登りきると三の窓へ到着した。ここがかの有名な三の窓かと、記念写真。振り返ると懸垂をした斜面が、垂直の壁のように聳えている。上から見ると、もしかしてロープ無しで下れるかもとも思ったが、ここはやはりザイルが必要だと思った。

劔岳 赤谷尾根

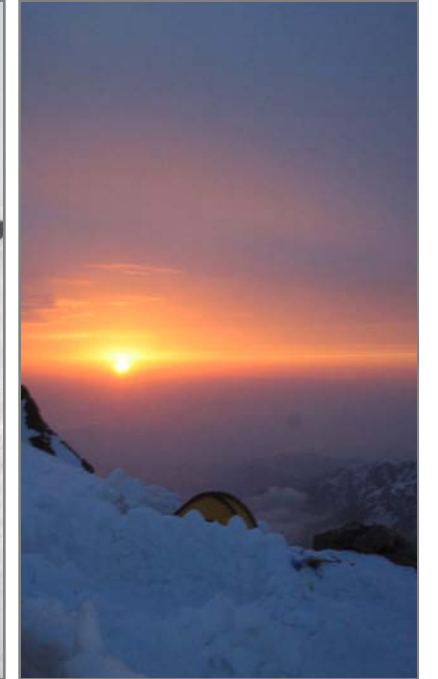
市瀬 江利子



小窓の王/前右にチンネ左稜線が見える



三の窓への懸垂



三の窓からの夕焼け

三の窓にはテントが4-5張り。見上げるとチンネ左稜線の間中部に2パーティが取り付いていた。大声で声を張り上げているが、苦戦しているように見える。チンネは想像していたよりもずっと雪が付いていた。ラバーソールで登ってしまおうと思っていた私達は、出鼻をくじかれた感じだ。が、とりあえず、テントを張って、取り付きまで偵察に向かう。雪面をトラバースしつつ、100m程進むと、見上げた上部に1パーティが取り付いているのが見えた。ルート図を見ても特にルートが無さそうな箇所で、間違っただのかなぁと言いつつ見上げる（実は新ルート開拓だったようだ）。3人パーティで男性がトップ、女性二人が下でビレイをしていた。

さて、私達は取り付きまで行ってみる。一つ目のテラスへ直接トラバースする上部の取り付き部分は雪に覆われていて、支点も特に無い。はっちゃんに更に雪壁を降りて1ピッチ目の基部まで行ってみるがこちらも雪がびっしり付いていて、ラバーソールではとても無理だ。ましてや、アイゼンで登る覚悟も出来ていない。赤谷

尾根だけでも十分お腹一杯のルートであったこともあり、予備日を使つての登攀は止めることにした。しかし、次の日の行程を考えると、行かなくて正解だった。この日は憧れの三の窓で綺麗な夕焼けを見つつ、夕食を食べた。

5/5(火)

三の窓BP(6:10)-劔岳(8:15)-劔沢(11:45)-ハシゴ谷乗越(12:50)-黒部ダム(19:00頃)

まずは、朝一番で池ノ谷ガリーの急登。登りきると、八峰の鋭い稜線に雪が一杯付いていた。いつか登ってみたいと思っていたが、とても手強そうに見える。ここから劔岳のコルまでは、両端の切れ落ちた、落ちたらただでは済まない、怖いルート。雪底もあり、緊張する。劔岳のコルに着き、荷物を置いて、劔岳までピストン。コルからの雪壁は、下から見てもかなり急に見えた。が、なんとかザイル無しでも行けると踏んで、ダブルアックスのみ持っていく。しかし、上部は結構な高度感。帰りが心配になるが、ザイルも無いので、覚悟を決めて行くし

劔岳 赤谷尾根

市瀬 江利子



池ノ谷乗越から見た八峰

かない。ここを抜けると後は頂上まで穏やかな尾根。この辺りから、霧がパーッと晴れて、展望が利いてくる。すごっ！と思わず叫んでしまう。頂上には反対側から登ってきたパーティが大勢いた。頂上は風が強く、写真を撮り、すぐに下山。さっきの急雪壁まで戻り、上から恐



劔岳頂上

る恐る下を覗き込む。「ひえー、大丈夫かなあ??」腰が引けるが、行くしかないので、一歩一歩ゆっくりステップを確認しつつ、降りていく。隣をガイドさんとお客さんとザイルを繋ぎつつ登っていった。ここは緊張する場所だった。

さて、コルからは長次郎谷を下る。谷に入ると、風が無くなり、太陽が照りつけ、めちゃ暑い。たまらずにヤッケを脱ぐ。ずぼずぼと潜り、歩きづらい。途中で嫌気が差し、少しシリセードで滑って見ることにした。ところが、重荷の為、加速が付き、すごいスピードで滑り出した。足を広げても止まらず、捨て身で横になったところで、やっと止まったが、下の岩場に激突する自分が想像できて、恐怖だった。さて、劔沢までがとにかく長かった。気温が高く、雪崩が怖いので気持ちは焦るがちっとも進まない。八峰を左に見ながらずっと下っていくが、この尾根を下から登るのは相当大変そうに見えた。行きたい気持ちがちょっと萎える。

やっと劔沢に辿り着く。風も無く、太陽が照り付けて暑い。右岸を歩いていく。ハシゴ谷乗越に行くには劔沢をどこかで渡らなければならない

劔岳 赤谷尾根

市瀬 江利子



ハシゴ谷乗越から内蔵助平

が、この辺でトレースを見失う。そろそろ渡らないと、と思って行ったりきたりしているうちに、石の上に赤ペンキの表記が出てきた。黒部ダム方向は右と矢印が書いてあったので、その少し上部を石を伝って渡渉する。ところが、少し上過ぎたようで、一本早い沢をはしご谷乗越への沢だと思って詰めてしまう。人もいないし、トレースも無いし、なんか話が違くない? って思いながら、この沢を2人でトレースをつけて登って行く。意外と長い。疲れきったころ、ようやく上に抜け、内蔵助平を眼下に見下ろす。しかし、ハシゴ谷乗越よりも100m程上に出てしまい。違う沢を詰めてしまったことがはっきりする。

今回の下山ルートははっちゃんのお勧めルートだった。昔の記憶では、春のこのルートは快適で素敵だったらしい。その上、室堂ルートよりは長いが、このルートはプリムラに入った最初のお正月に行った思い出のルートだ。あの年、まだ通ることが出来た関電トンネルを通り、黒部ダムを下り、ハシゴ谷乗越まで来て、敗退したのだった。あの時のルートに繋がれると思った。あの時は、大坪先生がいて、水野さんがいて、もとびがいてはっちゃんがいた。正直言って連れて行かれるだけだった私は、どんなルートだがよくわかっていなかった。でも、そのルートに繋がれると言う事は、何か節目のような感じがした。

さて、乗越まで来たが、時代が違うのか、ここに来てトレースは数人分しか見当たらない。

結構人が入っているルートのはずが、GWだと言うのに見渡す限り人はいない。私達は内蔵助平を下り、果てしない雪原を歩いていく。

ここまで来ればあともう少しと思っていたのは、甘かった。内蔵助谷に入ると、右岸上部をトラバースしつつ進む。雪が中途半端について、非常に怖い。雪に乗ったり藪に下りたりで、気を使う。その上、傾斜はかなり急だ。ここで、体力をどんどん消費して行く。そして、急な斜面に突き当たり、ここを下るのは嫌だなあと思っていると、はっちゃんが前向きに下りだす。が、途中で後向きに変えようとした瞬間、雪が流れ出すように、はっちゃんが滑り出し、私は心臓が止まる思いをした。「危ないっ!」と叫ぶ。はるか下は沢だ。が、やはりはっちゃんは強運の持ち主のようで、途中の木に掴まって止まった。あのまま落ちていたら骨折くらいはしてたね、と後で話したが、私は暫く膝の震えが止まらなかった。

この永遠に続くかのような谷も、相当な時間をかけてようやく抜け黒部川へと合流した。黒

劔岳 赤谷尾根

市瀬 江利子

部ダムの下に着くころにはほとんど暗くなっていた。今日の最終バスに間に合わないことは、当に分かっていたので、ここで、アイゼンを外し、休憩。後はダム入り口まで登山道を登って行くだけだ。

少し登山道を登り、途中からダム入り口まで直登できる雪渓を登りだす。が、登っても登っても着かない。だんだん傾斜も急になり、雨も降り出す。寒いが、いまさら雨具を着る気力も残っていないので、そのまま登り続ける。アイゼンを履いていないので、ステップを刻みながら慎重に登る。まだ体力のあるはっちゃんはどうぞん登って行き、ヘッデンの明かりも見えなくなる。いったいいつになったら着くんだ?? 暗闇の中一人ステップを切っていく。「ここで、滑落したら、ばかだな。。。」等と独り言まで出るようになる。

はっちゃんが「着いた!」と言っているようだ。私はそれから、かなり時間をかけて黒部の入り口まで上り詰めた。私はもう心底エネルギーを使い果たしたという感じで、とにかく寒い。動くのが億劫だ。入り口のすぐ側にテントを張

ることにして、まずはトイレで着替える。ここには水道の蛇口がいっぱいあり、水は使い放題なのが嬉しい。とにかく寒く、着替えても暖かにならない。自分で体温を上げられず、お湯を入れたアルファ米を作ってもらい、洋服の中に入れて身体を暖める。私は今までで初めて、ものが食べられず、スープやお茶だけを飲んで過ごした。でもとにかく、無事にここに辿り着けた安心感で、幸せな一夜を過ごす。

5/6(水)

黒部ダム＝扇沢＝信濃大町＝帰京

翌日は朝一のバスに乗り、帰途に着く。途中で大町の温泉に寄って、4日間の汗を流した。しかし、昨日は最終日で身体も弱っていたせい、本当にきつかった。赤谷は素晴らしい尾根だったけれど、今回は、最終日の印象が強すぎて、赤谷尾根の印象が薄れてしまったのがちょっと残念。同じ時期のルートでも、昔と今では大分違ってきているのかもしれない。そのことを痛感したルートでした。

劔見るなら、やっぱり赤谷尾根!! ―体力使い果たしました―

初鹿 裕康

【コースタイム】

5/2晴 馬場島(8:37)―取付(9:27)―1560m(14:35) ―1850m(16:45)

5/3晴 (6:50)―赤谷山(8:39)(8:58)―大窓(12:48)(13:09)―大窓の頭(15:03)(15:21)―池の平山手前のピーク(16:08)

5/3晴 (6:34)―コル(7:11)―小窓(9:00)(9:21)―小窓尾根(10:33)(10:52)―懸垂(11:46)―三の窓(12:27)

5/4曇/小雨 (6:19)―池の谷乗越(7:00)―長次郎のコル(7:53)―劔岳(8:25)―長次郎のコル(9:01)―熊の岩(9:45)―真砂沢(12:04)―ハシゴ段乗越(14:08)(14:20)―内蔵助平(15:08)―黒部川出合(17:07)―ダム下(18:53)―黒部ダム(19:45)

【パーティ】初鹿 裕康、市瀬 江利子

夜行バスで池袋から富山。3列シートはゆっくりと寝られた。しかし高速1000円の影響か、ちょっと遅れての富山到着。おかげで、始発電車に乗り遅れる。

荷は重い。軽量化したつもりで、ビールだって3本しか(*^_^*) 持っていないのに。地鉄、タクシーと乗り継ぎ、雪の見当たらない馬場島でゆっくりと用意して出発。暑い日差しの中、林道を歩いていくと、取付にピンクテープが垂れ下がっている。踏み跡らしきものはしっかりとあるが、いきなり藪こぎの始まり。荷物は超重いし、暑いし疲れて、もう帰りたい。そんな感じのする出だしである。重い荷を背負って藪漕ぎ、しかもプラブーツは、辛い。途中からやっと雪が出てくる。雪が出てくると多少歩きやすいし、水分も取れるし、気持ち的にもだいぶ楽になる。

赤谷山に行くのなら、ブナクラ沢から登ったほうが時間的にも速いのだが、それでは赤谷尾根を登ったことにはならないもんね。事実、劔見るなら赤谷尾根であった。ブナクラ谷からは、こんな素敵な劔岳は見られないであろう。先行パーティもどうやらいるらしい、1800m位で今日は泊まろうということになる。その1800mに先行パーティのテントが張ってあったので、さらにその先に幕営。あまりの荷物の重さに負け、

ビール2本飲んでしまった。

翌日、我々もずいぶん遅いのだが、昨日の先行パーティは、まだテントから出てこない。赤谷山にはさらに先行しているパーティの姿も見える。

赤谷山の頂上にはブナクラ谷から登ってきたらしい(普通の??)登山者がいた。なんか見た目が全く違う。

赤谷山からは、劔岳は無論のこと、小窓尾根や劔尾根もよく見える。後続のパーティは、我々より1時間くらい遅くテントから出てきたが、その後結局、姿を見なかった。ブナクラ谷から下降して帰ってしまったのか? 毛勝に行ったのかは不明・・・。

白萩山で上部から人がザイルを着けて下降してくる。下降するにはちょっと怖い、登る分には何とかなりそう。赤ハゲ、白ハゲは難なく通過。大窓への下降は先行の足跡がないとわかりにくい。最初の下りで、あまり危険もなさそうなので、ERIKOよりちょっと先行。しばらくすると、上から呼ぶ声が聞こえる。見るとERIKOがハイマツの下でザックを横にして倒れている。あれっ、落ちた?? やばいと思って大急ぎで戻ったら、雪に足がはまって抜けなくなった(;-_-)

劔見るなら、やっぱり赤谷尾根！！ 一体力使い果たしましたー

初鹿 裕康

大窓へは主稜を回り込んで下って行くようなのだが、かなり手前のハイマツ帯をこれでもかというくらい下っていく。つい、左側の主稜上に出たくなるが、ここはぐっと我慢する（実は1回見に行ってしまった）とやっと大窓。下降する場所が上から見えないのは、自分のいる位置が分からなくなるので嫌だね。下から見る主稜上は結構やばそう。大巻しなかったら懸垂だね。時々ガスってきてよく先が見えなくなる。大窓からの登りは果てしなく遠い。たまに見上げると雪面がガスの中に消えているのが見える。どこまでも続く登り。いつまでたっても頂上が見えてこない。でも、何事にも必ず終わりはあるもので、どうにかやっと、大窓の頭の頂上に立ち、池の平山へと向かう。もうそろそろ体力的にも一杯いっぱいなので泊るところを見つけないと。池の平山の手前に岩場がある。正面突破するにはザイルが必要だが、左から巻いて行けそう。もう少しでシュルンドが開きそうで、ちょっと怖い。難なく岩場を巻くことができた。その先にちょうど良いスペースがあったので、ここを今日のテン場とする（2561Pの先）。

翌日はコルへ下り池の平山へ。FIXのある所をノーザイルで登っていく。ここはFIXから少し離れたところのほうが登りやすかった。池の平山の稜線上を歩いて行くと、やっと懸垂支点があったので50mザイルを降ろして、ERIKOが下ってみたが全く必要なく、結局私は歩いて下る。

この辺は雪の状況で判断しなきゃだわ。最後の最後に50m2本で懸垂下降。ここも歩いて下れそうではあるが、下部のシュルンドがちょっと怖いので、懸垂が正解だろう。

ここが小窓。テン場跡3つほど有り。ここからの登りは池の平山から見ると結構急で怖そうな登りだ。でも実際近づいてみると、まあ、急だが普通の登りだった。雪が安定してればなんてことはない。でも、新雪が降ったばかりや、ラ

ッセルだったら厳しくて怖いだろうな。小窓の頭に出ると、ぱっちりトレースがある。やっぱり小窓のほうが人気なのだろう。小窓尾根には結構取りついていたようだ。小窓王からは懸垂1回。その後慎重にトラバースして、ちょっと登り返すと三の窓だ。今日は早いので、いい場所を確保して幕営。明日行くはずの、左稜線を下見に行くが、雪がぱっちり付いており、ラバーソールを忍ばせてきたが使えそうもないので、あきらめる。12年前に来た時は真っ黒だったのになぁ……。温暖化じゃなかったの？

最終日、池の谷乗越へは夏より登りやすいので難なく到着。ここにもテント2つほど有り。長次郎のコルから劔へアタック。ここの登りは、下りが結構心配な登りだ。必要とあれば上部に懸垂支点があるのでザイルを持って行った方がよい。劔岳往復後、尻セードを交えながら真砂沢へ。しかし、トレースはほとんどない。今じゃ、ハシゴ段乗越から登る人いないんだねえ。真砂沢が開いていたので渉る所にちょっと苦労する、岩に書いてあった「→」通りに沢に入ったが、一本手前の沢から登ってしまったらしく、ハシゴ段乗越のちょっと上に出てしまった。

内蔵助平までは順調。しかし、ここから先が今日のメインだった。雪はずたずたに切れている。夏道はわからない。最悪。藪を漕ぎながら、



毛勝をバックに

劔見るなら、やっぱり赤谷尾根！！ 一体力使い果たしましたー

初鹿 裕康

雪の上を縫うように下っていくしかない。黒部川出合まで2時間もかかってしまった。ここからダム下までも結構ズタズタの雪で大変だった。途中から小雨も降ってくるし。結局、最終バスにも間に合わず、黒部ダム駅の構内で寝る羽目になった。ダムを渡った向こうに行けば何かあ

るのかもしれないけど、そこまでの元気はない。ダムの構内は改札口にも入れないようになっており、居場所はダム下から登った所の狭いスペース。多分同じ思いをしたであろう人が残したと思われる、真新しいカロリーメイトの空き箱が、2つぽつんと物悲しく転がっていた。

劔岳の歌（早稲田山岳部の部歌でダンチョネ節の替歌らしい）

夢に描いた劔の山にヨ 意気と力でネ ぶちあたるヨカネー

劔見るなら赤谷尾根でヨ 大窓小窓にネ 三ノ窓ヨカネー

窓に数々窓はあれどヨ 劔の大窓ネ 日本一ヨカネー

窓を開ければ富山の町がヨ 暗い夜空にネ うす明かりヨカネー

ザイル結んで氷の尾根をヨ 仰ぐ劔のネ 薄化粧ヨカネー

はるかに見下ろす池の谷のヨ 暗いゴルジュのネ 蒼水ヨカネー

ブナでドンとうつ雪崩の音はヨ ごついおいらのネ 度胸試しヨカネー

どうだ見てくれおいらも焼けたヨ 山の男のネ 色香りヨカネー

ヒゲを伸ばして伊折へ下ればヨ おいらを待ってる獅子舞がヨカネー

涸沢から北穂・奥穂

山行日：2009年5月2日～5日
メンバー：大坪、山里、二重作、平
[コースタイム]
5月2日(土) 08:30上高地-09:20明神-10:40徳沢-12:00横尾
-13:50本谷橋-17:00涸沢
5月3日(日) 07:00涸沢-10:00北穂山頂-北穂小屋(休憩)11:30-14:00涸沢
5月4日(月) 06:20涸沢-09:00穂高岳山荘(休憩)09:30-10:30奥穂山頂(休憩)11:00
-11:40穂高岳山荘(大休止)12:40--14:50涸沢
5月5日(火) 07:00涸沢-08:00本谷橋-09:00横尾-10:00徳沢(休憩)10:30
-11:30明神-12:30上高地

2009年5月2日（土）

前日（1日）の23時半に八王子駅南口に集合したが、連休の渋滞で大坪先生が到着したのは、0時をまわっていた。二重作さんを迎えて、深夜、上高地に向う。運転は申し訳ないながら、大坪先生と二重作さんに厄介になった。沢渡駐車場に7時着。仮眠をとってタクシーで上高地に入る。

8時半に上高地から歩き始める。快晴。無論、雪はない。観光客の間を快調にとぼす大坪先生の足が早い。途中で猿の写真を撮って遊びながら歩く。ほぼコースタイム通り。徳沢でソフトクリームに心惹かれるが帰路まで我慢。気持ちが良いので、ここでテントを張っても良さそうな感じだったが、仕方なく先を急ぐ。横尾大橋を越えたあたりから、雪が出たり消えたりする。歩きにくい。本谷橋の先からはまっとうに雪。トレースは問題なくついている。急坂を登りきって樹林帯を越えると、沢の彼方に穂高の山並み。山腹を巻くようにして、景色を楽しみながら歩く。ゆっくりしすぎて、日が山の影になると、一気に寒くなった。夕暮れ時、お日様と競争でようやく見えてきた涸沢ヒュッテを目指して登る。いつもながら、この最後の登りがこたえた。

17時、ようやく涸沢に到着。たくさんのテン

平 真里



徳沢に泊りたい

トの隙間に、テント適地を探して、整地する。テント1泊、1人500円。水がもらえるのがあるがたい。二重作さんの肉団子の鍋をご馳走になると、猛烈に眠くなる。翌日に備えて、早々に就寝。

2009年5月3日（日）

4時半起床。朝食をいただき（ハヤシライス）、準備を整えるとすでに7時。続々と北穂、奥穂に向う人々に大いに遅れをとり、不安になる。ザイルは8mm20mを拝借して持った。踏み跡はいくつもついているので、歩幅の合いそうなものを選びながら登る。傾斜は急でも、アイゼンの爪をきかせて登る必要はない。みるみる高度を稼ぎ、テント村がずっと下に見えた。陽が容

涸沢から北穂・奥穂

平 真里



北穂山頂から槍が

赦なく降り注ぎ暑い。適当な斜面を踏み固めて休憩をとる。次の休憩場のあたりをつけて、それを目指して登る。休憩場を逃した、と思ったら、稜線に出た。山頂は近い。たちまち元気が出て、足を早めた。10時に山頂着。キレットもその先の槍もぼっちりだ。写真を存分に撮り、何度も周遊していたら、大坪先生と山さんの姿はなくなっていた。雪の階段を降りて、穂高岳山荘に。昼食を摂るため大休止。記念に手ぬぐいを買った。寒くなってきたところで、山頂に登り返して、下山開始。踏み跡を辿るのも歩幅が合わなくてしんどい。腿が張ってくるが、踏み跡を外れるには、怖い傾斜である。涸沢のテント場まであとわずか、というところで大休止。涸沢テント村を眼下に、ザックに座り込む。脇をシリセードの人が滑り降りていった。

14時ごろ涸沢に着く。アイゼンを外してザックをしまうと早々に涸沢ヒュッテのテラスに行く。生ビールとおでんの時間。空いた席に着いたとたん、隣りから声がかかる。旧知の山仲間5人だった。きょうの行程やら近況やらひとしきり喋ると、ようやく落ち着いておでんをつついた。思わぬ再会と酔いの興奮で、次回の山行と宴会の約束までととのった。満たされた気分でテントに戻り、夕飯の支度。3晩のうち、最も手拔きの私が担当した夕食は、さんまの生姜煮丼

（レトルト）。あっけなく終わって、明日の起床時間を確認し、就寝。20時過ぎ。

2009年5月4日（月）

4時起床。体が痛い。昨晚、炊いておいたアルファ米で朝食の準備にかかる。きょうこそ早く出なくては。予報は終日曇り。下り坂なので雨が心配である。6時過ぎに出発。きょうも続々と人が北穂、奥穂へ向っている。雪か雨が降り出す前に、ピークを踏んで下山したい。思ったより天気は悪くなく、人の列について奥穂へ。夏に登ったザイテングラートも、雪がつけば、ただの斜面。息がはずまぬようゆっくりと登り、昨日同様、時間をにらみながら、適当な場所で休憩をとる。順調に歩を進め、9時に穂高岳山荘着。トイレ休憩をとり、梯子を登っていく人たちを眺めていた。ザイルを荷物のいちばん上に入れ替える。登山者は途切れないので、団体に追われるようにしてわれわれも腰をあげた。梯子前で、少しだけ下山の人待ち。岩場を越えると、かなり急な雪壁だが、ステップはしっかりしているので、思い切り足をあげて登る。広くて座り込めそうな場所で、いったん休憩。のんびりしすぎると次々と人がくるので、槍をバックに写真を撮って出発。山頂は、いつも騙されることが多いが、思いがけず近かった。

祠の前は、記念写真を撮る人々で順番待ち。顰蹙かと思ったが、二重作さんのすすめで岩をよじのぼって祠の前で写真を撮ってもらう。撮影してくれたのは、案の定、先に行ってしまった男性2人組ではなく、展望を楽しんでいた見知らぬ人だった。

穂高岳山荘目指して下山。岩場前の雪壁がいちばん緊張したところ。ステップが大きすぎて、足が届かないため、じわじわと重心を移動してから後ろの足を外す。岩場前でやはりちょっと人を待つが、心配したほどたいした時間ではない。穂高岳山荘に着くと、迷った拳句、山荘内



奥穂山頂からも槍

に入って大休止。各自、昼食、飲み物を注文してのんびり過ごす。山さんはビールを飲んでいました。

12時半をまわって下山開始。踏み跡は外して、足に負担のかからないように下る。傾斜は急なので、ジグザクに。踏み跡が無数にある。やっぱり、あと少しのところで、大休止。スノーボードで降りる人、スキーで降りる人、を遠くに見物する。それでも15時前には涸沢についた。

これも昨日同様、生ビールとおでんを注文しテラスで休む。頃合でテントに戻り、山さんのゴーヤチャンプルーをご馳走になった。前菜にキャベツとコンビーフの炒め物、のち本番の炒め物4回戦。贅沢な食事を満喫し、2日とも好調に登頂したことに満足して就寝。

2009年5月5日（火）

なぜかきょうも晴れていて空が青い。朝食のラーメンをいただき、出

発の準備にかかる。いちばん時間がかかるのは、小屋のトイレの順番待ちか。太陽が出ているので、撤収前にテントを乾かす。名残惜しくて写真を何枚も撮る。ようやく7時に出発。

小屋から一気に下る。雪の照り返しがきつい。この晴天も昼までもつかどうか。下山する人多数。樹林帯に入ってほっとするが、人とのすれ違いが多い。待ったり待たれたりを繰り返して、本谷橋に着き、アイゼンを外した。滑りそうな足もとに注意しながら歩く。岩も出てきて雪道よりよほど歩きにくい。横尾の大橋が見え出すとほっとした。ここから先は、まったく雪はない。平地の要領で歩き、徳沢着。念願のソフトクリームを食べる。ここでも他会の知人に出会う。さすがに涸沢だ。燕から槍を縦走してきたとのことだった。雲行きも怪しくなってきたので慌てて先を急ぐ。明神で休憩して、上高地12時半。そのまま待っていたタクシーに乗り込む。

沢渡で荷をといて帰路につく。途中から予報どおり雨が降り出した。心配していた渋滞はちょっとだけで、19時前に八王子に着いた。同行のみなさま、ありがとうございました。



テント撤収

富士山スキー win & lose [山スキー]

北原 浩平

(日時) 2009年5月16・23日(土)

(メンバー) 16日：北原・山里・市瀬・初鹿+渡邊
23日：北原・山里・佐藤

(日程)

16日 7:30富士宮五合目→10:00八合目(3050m) 10:45→12:00富士宮五合目
23日 7:30富士宮五合目→12:45富士宮山頂(13:15剣が峰) 14:00→15:00富士宮五合目



えりちゃん



初ちゃん



くみさん

昨年に続き、富士山滑降にチャレンジした。今年はGWに雪が降り、5月の富士は雪が多かった。どうも6月まで滑ることができたようである。

5月16日

3月に退会したくみえさんも参加し5人でチャレンジ。天気も悪く、気温も低く、雪も硬い。結局、八合目で断念し、硬い雪面を慎重に滑り降りた。

5月23日

翌週、リベンジにやってきた。今回は五合目の下部は雨だが、上部は好天。雪質も良く、富士宮山頂の鳥居からスタート。東面にトラバースしながら、快適に滑り降りた。



八合目より上部の斜面



鳥居にて



剣が峰にて

尾瀬のミズバショウ

浅井 邦夫

今年も時期がやって来た。我が家では、夫婦ないし家族でミズバショウを見に尾瀬へ行くことが、10年以上恒例の行事となっている。今年は、5月最終の週末に温泉へ前泊し、行こうとしたが雨に降られ尾瀬行きは中止となってしまった。

しかし、今年は少し根性があり、翌週の6月7日に再度妻と二人で行くことになった。例によって早朝に出て、戸倉で自家用車から乗り合いバスに乗り換え鳩待峠に入る。後は、山の鼻までのんびり下るだけ。ミズバショウやリュウキンカ、オオカメノキ、ヤシオツツジ、シラネアオイなどが盛りで咲いていた。

近年、ミズバショウの大きさが小さくなったと感じる。今から40年以上前のミズバショウは、比べ物にならないほど大きかった。そして尾瀬ヶ原の湿原が、もっと湿地であった。高層湿原の植生遷移がかなり進んでいるのか、確実に植生が変化している。あと半世紀も経たないうちに今の様なミズバショウは見れなくなるだろう。

帰路は、当然のように来た道を上って鳩待峠に戻る。ちょうどお昼。まだまだツアーの人が続々と入山している。この時期は、昼には下山して帰るに限る。また来年もミズバショウに会いに行こう。

なほみさんのいつまでたってもうまくなならないクライミング日記 (29)

水野 奈保美



最終章

憧れのビックウォールへの道…
はたしてノーズは登れるのか？【前編】

2009年4月～6月
お気楽に見えるでしょうが
5月連休を境にトレーニングモードに突入！

4月4日(土) 足は出しも手は出さな (12a) with お師匠

池田フェイス

・足は出しでも手を出さな 12a×3

(1)アップで途中まで

(2)思い出したり、こーちゃんにおすわったりするが、トップアウトせず。

(3)途中で雨もようだったので、ゴボーとかでトップアウト。

ムーブの、やり直し。まだおっかなくてリードできないからムーブが解決するまでトップロープでご容赦。間をあけるから、こういうことになるのよね。

4月5日(日) 小川山、レイバックとスパイヤー、三日月ハング with O山

9時ごろ着いたらなんだか上空ガスってて寒かった。それでもまずはレイバックに行ってみる。岩が冷たい。

登り終えたころ陽がでてきた(遅いよ！)いったん駐車場に降りて陽にあたって体温を上げたあと(トカゲ?)クジラ岩へ。



三日月ハング。登ろうとしているのは居合わせた若いお兄ちゃん。

スパイヤー3級やらさわっているときがかげって寒くなってきたのでビクターへ移動する。先客が一组。三日月ハング側には雪が残っていた。しばらくトライして、寒くなってきたのでカエル。

この時期の日没時間は遅いけど、気温が低

いので、上がる時間は城ヶ崎より1時間ほど早い。寒いと、やっぱり気持ちもダウンヌ。小川山はやっぱり、谷間なんだなあ。城ヶ崎から季節が逆もどり。日さえ朝から当たってくれてれば、岩の状態はすごくいい。やっぱり、山はいいわねー

4月11・12日 夏日な末端壁&廻り目平 with O山

4/11 (土)

瑞牆山十一面末端壁へ。だれもないだろうと思ったら駐車場にはガメラさんとSK君がいた。大やすり岩の高グレードルートに行くんだそうだ。

火曜日から居て今日帰るガメラさんは、ちょっと考えてから(しかたなさそうに)ちょっと減った1升紙パックワインをくれた。ガメラさん、ありがとうね。

・調和の幻想 1P

・アストロドーム 11a×1

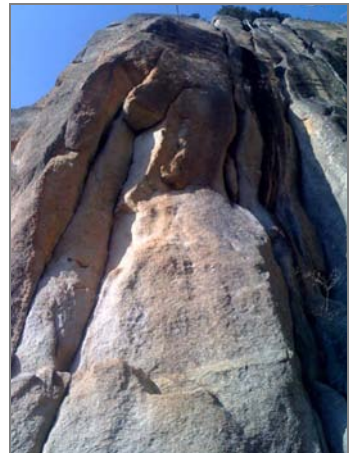
昨シーズン一度もトップアウトしないでいたのが、初めて(ほぼ各駅)小1時間かかってトップアウト。つ、疲れた。

簡単ではないけど、すごく難しいムーブも、ジャムもないので、近いうちに登れるでしょう。

4/12(日)

・レイバック 久々に2ピッチ

・スパイヤーライト 3Q 非常においしい最後のリップがとれず、まで。うぎゃー怖いよー^^



アストロドーム

なほみさんのいつまでたってもうまくなならないクライミング日記 (29)

水野 奈保美

・穴社員 3Q 久々にちょっと進展。

今更ながら私の弱点は肝心なところで「やさしい気持ち」になって力が抜けてしまうところでしょう。別の、一般的な言い方なら「詰めが甘い」のでございます。でも、これはどうも天性のもので、1升、じゃなくて一生治らないみたいな気がしています。穴社員のクロスをとれないのも、そのあとの高さが怖くてカラダが嫌だと言ってるんでしょう、と分析してみる。できないムーブも(多分)なく、リーチも、実は力もあるのに、です。ああなんて弱い私。しかし今週は久々の末端壁アプローチと、標高にやられた。ちょっと前まで海拔ゼロメーターにいたんですからね。息が切れてたいへんだったわ。(つうか加齢?)

4月18・19日 お初十一面正面壁&ボル with O山

4/18 (土) お初十一面正面壁

末端壁→菊池さんのお手伝いで初正面壁へ。末端壁から沢を詰めていき、トラバースして正面壁取り付け帯に。菊池さんらのアップが終わるまでちょっと待つ。「ごめんねー(せっかく来たんだから)ベルジュエールでも登れば？」って、そんないきなり前準備もせず登れません^^セクハラ(?)

後、白熊さんのコルまで巻き道を登る。連れてってもらわなければちょっとわからない。有る意味ラッキー。小やすり岩への分岐も教わったし。

お手伝い後、末端壁に戻ってちょっと登る。

- ・調和の幻想1P
- ・アストロドームTR

4/19(日) 三日月ハング、穴社員

ビクター

- ・コーンケープ 3Q
- ・三日月ハング 1Q



白熊さんのコルのお二人

お強い若い方々が増えてきたので遠慮する。

クジラ岩

・スパイやライト 3Q あと1手がでねえ。

・穴社員 3Q

出だしのムーブを変えてみると、クロスと、上のカチまでとれてしまった。やばい。あと1手だったのだけど出ず、とりあえず落ちておく。ようやく登れそうな気配。

・エイハブ船長 1Q

カチったあと、前上がらなかった足が上がるようになった。機会があればすこしづつトライしてみよう。

4月27日(月) 高尾山(平地と下りだけ) ラン

ランニングシューズを買って早3ヶ月...もっとかな。ようやく朝起きられた。

うち→高尾山口(自転車)29分/5.71km

高尾山口→1号路→薬師様経由→山頂(早歩き)45分/4.07km

山頂→3号路→2号路(軽く走る)51分/4.89km

高尾山口→うち(自転車)24分/5.75km

6時半にでて9時半帰宅。気持ちよかったー。

山頂からは、富士山、東京都、海、房総半島まで見えたよ。

4月29日(祝) ペガサス(再) with O山

末端壁にあがって見上げると、ラインは違うけど、調和上部には氷瀑！！調和の4PあたりをSK君がフリーソロしていた。声をかけると手をふってくれた。

こんな日は、調和の幻想登ってみるのもいいかもと、おりてきたSk君に根掘り葉掘り情報を聞き、支度をして取り付きに行く。と、上部の氷瀑からばらばら氷が落ちてくる。あらら〜。

メット持っていないし、登ってる最中降ってきたらやばいわ。かなりでかいのも混じってるし。なので(いつもどおり)コーヒーでもいれて、ちょっと待機。風もあって、気温もひくいので(いつもどおり)ちょっとモチベーションが下がる。



調和の氷瀑

なほみさんのいつまでたってもうまくなならないクライミング日記 (29)

水野 奈保美



すごく珍しいサクラソウだそうで

が回復してきた。がんばろう！

連休小川山 かぶとむし12a (敗)の巻 with お師匠

5/2 →小川山

5/3 かぶとむし(×2)

5/4 かぶとむし(×2)

5/5 ボルダ GDGD

5/6 →家

お師匠：あと2日あればなあ...

私：あと3日あればなあ...

お師匠：また誰かと来て先に登っちゃうんでしょ

私：それは絶対ないです！！

でも、抜け駆けしてでも登りたいね。とっても素敵な課題だよ。

5月9・10日 イムジン河、前絵星岩 with O山

5/9(土) 末端壁→廻り目平、イムジン河

雨上がりの土曜日。末端壁へ上がると、すでに2パーティー、5人ほど。しかも平日に降った雨が、滝のように壁面を流れていて、乾いているのはアストロドームと、春うららの1Pの2本だけ。この2本でクライマー7人？しかたなく廻り目平へ行く。

・レイバック

レイバックへ行くと、Mつだ師匠とY子ちゃんがいて、事情を話すと「あんなに雨が降ったんだから、普通は予想がつくでしょう？きゃははははー！」

・イムジン河5.11c/d(TR)×1

下部はノーテンだった！(進歩〜^^)フィンガーが終わってフレークを持ってレイバックしてガバ、が全く

出来なかった。去年はここらへん楽々だったような気が...。でも、好感触。次回からリードでトライしよう。

5/10(日) 廻り目平→不動沢、前絵星岩

ゆっくり片づけて昼ごろに前絵星岩。先に行っていた今秋ヨセミテツアー同行予定のM川さん、旧？ワイドの帝王I田さんと合流して、5.9ワイド、10aワイドを登る。(10aワイドは3mで敗)ワイド久しぶりで、5.9でも登れない。フォローで登って見たらあんがい簡単だったので、怖い怖い病だったってことがわかる。イムジンで遊んでる場合じゃあない。ワイドいっぱい登らなくちゃ。

5月16日(土) 末端壁ふたたびペガサス with O山

末端壁

・ペガサス11d(再)

午後から雨の予報をおして1、2本でも登れば、と末端壁に行くと、先週のメンバーが凝りずにまいたた^^

やっぱり雨になったので降り、キャンプ場でコーヒーいれておやつ食べてから帰る。明るいうちに家に着く。



石楠花咲き始めてました。蓮華ツツジはもうすこし。

5月23・24日 前絵星、小瀬スポーツセンター

with M川

5/23(土) 不動沢前絵星

先日アップで登ってテンション入ったやつは登れました。10aのは、2回トライしたけど、登れませんでした。がコツはつかめてきました。M川氏はRPしてました。

M川氏は2日前に足グキをしたとのことであんまり登る気がない。私も1時間しか寝てないので、寝たりおしゃべりしたり食べたりおしゃべりしたりで1日終わり。

今日の植樹祭Pはにぎやかで杉野スクールご一行、クロちゃん&なっちゃん、S本君&三new、M田さん&Y子ちゃん、タスクちゃん、SK君&H野君... 三々五々帰ったり、廻り目平に行っちゃったり。

残ったSK君くろちゃんなっちゃんS本君三newと私たち、Tちゃんさんご夫婦も夜来て、路上で宴会。

5/24 (土) 小瀬スポーツ公園、住吉温泉ランド

朝方から雨。SK君をキャンプ場に残置して、甲府の小瀬スポーツ公園内のジムで遊ばせてもらった。コンペ風味のかい外壁があって、面白かった。とはいえ3、

なほみさんのいつまでたってもうまくなならないクライミング日記 (29)

水野 奈保美



12hくらいの課題を登るクロちゃん

なっちゃん

4本登っただけで売り切れ。まあ、でもまだまだ私も登れるじゃん。と思った。で、帰りにすごく久しぶりに温泉は行って、夕ご飯食べて帰る。行き当たりばったりで行った温泉が思いのほかよくて満足。

5月31日(日)小川山レイバック×3で3P60mのつもり

with O山

大日Pにはたった3台。それでもレイバックを登りに行く。意外なことに3パーティー。1パーティーはすぐに下りて行った。残るお2人と一緒に、交互に何度も登る。しかも1度に1〜3往復(クライムダウンして地面に着く前にまた登る)してみたりギアを2セット持ってみたりするが、とうとう本降りになってしまい、一時ビレーヤーが修行僧状態(打たせ滝)になってしまったので終了。

・小川山ライバック×3

6月6・7日 小川山レイバック、

天まであがれ5.12a(のAA) with O山

6/6(土)

雨、たまに晴れたりしていた。こんな日はレイバックしか登るところがないので、またレイバック。しかも、フィックスしてユマーリングしてみるテスト。

O山さんの天まで上がれ(AA)をビレー。終わったらトップロープセットしてもらって登らせてもらおうと思っていたら、半分かくらいのところでTCUが抜けてフォール。グランドすれすれ。ビレーもちょっと甘かったです。ごめんなさい！！回収して、終了。

6/7(日)

快晴となり大日駐車場は満席。昨日は5台くらいしかいなかったのに。

昨日のリベンジ。O山さん問題なくトップアウト。



私もトップロープで初AA。システムは普通のエイドとほとんど一緒。リングボルトやハーケンの替わりに、自分でセットしたカムやナッツなので、慣ればそれほど怖くない(トップロープだしね)ノーフォールで行ったので、ロープを抜いてリード。ノーフォールでトップアウトできた。AA合格^v^やったねー。というわけで、来週は何年前なのか忘れたほど昔行った丸山盗癖じゃなくて東壁でAA本ちゃん。うわー。大丈夫なのか？

6月10日

✕————(° ∇ °)————!!

ホールバック✕ーー
ロストアローさんに在庫がないつうんで通販。

今朝ゆうパックで届く(関税その場でとられた)145リッター&75リッター。うへーでかいっすー



6月13・14日(土・日) 丸東 京都府立大ルート

with 大山、宮川

過去の記録をさかのぼったら、2003年の先週に(本山君と左岩稜)行っていた。などと思い出していたら扇沢で本山氏ご1行と遭遇。仲間のかたたちと相変わらずにぎやかにやってらっしゃいました。

天気がすごく不安定で、内蔵助の出合付近で雨に会う。一時雷も。しかも、残雪が少なくて徒渉を強いられる。雨宿りして様子を見る。「小川山行く?」「黒部の太陽でも見る?」「じゃぶじゃぶで渡るしかないかなー」「水冷たいし嫌だなー」しばらくすると晴れて河原の石も乾いてきたので、びよんびよんで渡る。ようやく電波塔の広場へ。テントを張り偵察エーンド工作へ。

なほみさんのいつまでたってもうまくなならないクライミング日記 (29)

水野 奈保美



扇沢。天気悪。



路上で食べる人たち。今回の師匠2人様、宮川さんと大山さん。.



夕暮れの内蔵助出合。丸東がよく見えます。水量多。



1ルンゼ押し出し。雪ももう少ないです

1P目出だしの「展望台」まで登って、FIX。雪がある時期なら、容易に行けるらしいが、けっこう悪いので、ロープを出す。「これアプローチじゃねえよ」荷物もデポして、帰幕。明るいうちに夕ご飯食べて寝る。

朝2時半起床。ご飯食べてると、ばらっと雨。「なんだよー」4時半過ぎ、雨も上がったので出発。もう明るい。昨日のFIXをユマーリングして、荷上げ。

・1P 宮川

いちばん簡単な2P目をリードさせてもらうので、セカンドでクリーニングしながらユマーリング。ユマーリングに夢中だったので「自分が登る」ルートとして見てなかったけど、支点は、NPはもちろんハーケンだったり、リングボルトの「頭」だったり。しかも、結構かぶっていたので、サードの大山さん：「空中ユマーだ〜」少し、支点を残した方が良かったみたいだ。

・2P 水野

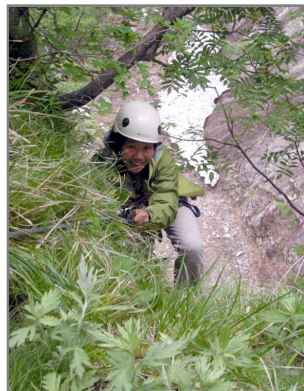
越沢のすべり台みたいなカンジの寝た凹角を、コンタクトラインのクラックとかちょっとした隙間とかにカムを噛ましながらのAA。40mくらいかな。結構長かった。半分フェイス、半分エイドみたいなかんじ。時にはフェイスにスタンスを求め、支点は自分で判断し



右岩稜。カメラが曲がってしまっただ。もうすこし立ってます



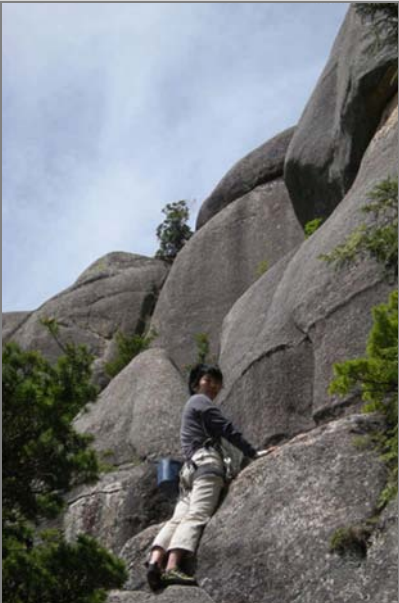
1P目出だしリードする宮川さん



ユマーリング。



2P目を初AAリードする。



牛乳瓶クラックの上のテラス 気分はヨセミテ



体胎内くぐりの出だし。チムニー状からフェイスに抜けるところが核心。



胎内くぐりの最後。このあとの数歩がちょっと悪い。

不動岩正面

- ・ワイルドハート10a フォローだけど、ワンテン。
- ・胎内くぐり10a リード敗。フォローで。

ほか、牛乳びんクラックとか、前絵星とか行こうと言っていたけど、時間切れ。気がついたら17時。やっぱワイド&マルチは時間がかかるねー。もっと精進しなくては。

ナナーズ行って予報を見ると、夜から雨降りそうなので、塩川ダムへ。すでに雨が降って来ている。ダム湖のほとりのあずま屋へ行ってビール飲もうとしていると、いつもの仲間の方々が三々五々集まってきた。おのおの好きなように酒をのんだり夕ご飯たべたりして、就寝、翌朝早々に帰京。

6月27・28日 ワイドは疲労困憊

つ、疲れた...(+加齢)

27日 不動沢不動岩

・牛乳ビンクラック 10c フォロー 核心A0、上部1テン (OW部ほんの1mなんだけどよろめき状態。ああ、苦手なサイズ！！オヤジ降臨：うぎゃー登れねーうおおお～on濁点)ぜえぜえ

- ・胎内くぐり 10a リードRP祝 だけどぜえぜえ

の2本で気がつくと17時。全身有酸素モード。植樹祭キャンプサイトバー泊

28日 不動沢屏風岩

- ・寒々ルート 2P フォロー
はじめてのバックアンド足チムニー。
フォローだけどぜえぜえ。

- ・不動沢愛好会ルート
1Pフォロー 2Pリード離陸不可 よれよれ
あー(濁点)たった2日でヨレヨレ。
こんなんで、ヨセミテいけるのか？(不安)

(次回、いよいよヨセミテ。の最終回へつづく)

No.	山行日	山域	ルート	参加者	区分
2563	4月3日	奥多摩	池田フェイス	水野・他1	フリー
2564	4月3日	越後	巻機山	佐藤・北原	山スキー
2565	4/4・5	越後	飯士山鋸尾根	初鹿・平	バリ
2566	4月4日	奥秩父	廻り目平	水野・他1	フリー
2567	4月10日	奥多摩	生藤山	初鹿・他	ハイク
2568	4月10日	奥秩父	瑞牆山十一面末端壁	水野・他1	フリー
2569	4月10日	中央沿線	扇山	佐藤・折茂・他2	ハイク
2570	4月11日	道志	陣馬山	初鹿・他	ハイク
2571	4月11日	奥秩父	廻り目平	水野・他1	フリー
2572	4/17-19	月山	月山～肘折温泉	浅井・初鹿・山里・市瀬・北原	山スキー
2573	4月16日	奥秩父	瑞牆山十一面末端壁、正面壁	水野・他1	フリー
2574	4/17・18	八ヶ岳	地獄谷権現沢左俣	小堀・佐藤	アイス
2575	4月17日	奥秩父	廻り目平	水野・他1	フリー
2576	4月25日	富士周辺	竜ヶ岳	初鹿・市瀬・平	ハイク
2577	4月28日	奥秩父	瑞牆山十一面末端壁	水野・他1	フリー
2578	4月28日	大菩薩	大菩薩嶺	折茂・他5	ハイク
2579	4月28日	奥多摩	越沢バットレス	小堀・佐藤・柿園・平	RCT
2580	5/2～6	北ア	劔岳/赤谷尾根	初鹿・市瀬	バリ
2581	5/2～6	奥秩父	廻り目平	水野・他1	フリー
2582	5/2～5	北ア	北穂・奥穂	大坪・山里・二重作・平	雪山
2583	5/9・10	奥多摩	雲取山	初鹿・他	縦走
2584	5/9・10	奥秩父	廻り目平	水野・他1	フリー
2585	5月9日	奥多摩	越沢バットレス	小堀・柿園	RCT
2586	5月15日	富士山	富士宮口	北原・山里・市瀬・初鹿・他1	山スキー
2587	5月15日	奥多摩	鷹ノ巣山	折茂・他3	ハイク
2588	5月15日	奥秩父	瑞牆山十一面末端壁	水野・他1	フリー
2589	5月22日	奥多摩	つづら岩	初鹿・平	RCT
2590	5月22日	富士	富士山	北原・山里・佐藤	山スキー
2591	5月22日	奥秩父	瑞牆山不動沢前絵星岩	水野・他1	フリー
2592	5月30日	奥秩父	廻り目平	水野・他1	フリー
2593	6月5日	御坂	黒岳～釈迦ヶ岳	折茂+他3	ハイク
2594	6月5日	奥多摩	赤ボッコ	初鹿・他	ハイク
2595	6/6・7	奥秩父	廻り目平	水野・他1	フリー
2596	6月6日	尾瀬	鳩待峠～山ノ鼻	浅井・他1	ハイク
2597	6/7～9	上越	谷川岳	初鹿・他	ハイク
2598	6月12日	奥多摩	つづら岩	初鹿・市瀬・平	RCT
2599	6/13・14	北ア	丸山東壁/京都府立大	水野・他2	AA
2600	6月13日	高尾	石老山	折茂・他	ハイク
2601	6月19日	奥秩父	瑞牆山不動沢/不動岩	水野・他2	フリー
2602	6月19日	越後	御前ヶ遊窟	初鹿・市瀬・平	ハイク
2603	6月20日	会越	もうがけ沢 (敗)	初鹿・市瀬・平	沢登り
2604	6/27・28	奥秩父	瑞牆山不動沢	水野・他1	フリー

From Editors



誰かと一緒に行けば登れるなんてことは、普通のパーティとしてはありえない(最近はやりの介護登山、もといガイド登山なら有りか)。でも、昔は良く連れて行ってもらったなあ。だけど、それって、少なくともパートナーじゃなかったよね。連れて行ってもらっている相手に、かなりの負荷がかかっているってことだから。良いパートナーと山に登れるってことは、お互いに良いことだね。(H)



先週末、仕事づかれで頭痛が始まった
屋久島皆既日食ツアーの「つけ」だから仕方がない
でも雨が激しく、山行中の仲間が心配になった
何回か豪雨で危ない思いをしたことがあるから
そのかわりに「1Q84」村上春樹を読んだ
ふたつの月を見たくなった
言葉には力がある あなたにもわたしにも(K)

編集後記



暑い。
べたべたする！
はやくパリッパリのヨセミテに行きたい。また3ヶ月くらい行きたい。
働かざるもの食うべからずだが、働きたくても仕事がないんだってば。
ああムカつく。世の中のいろんなことすべてにムカつく。(M野)

原稿の書き方、送り方について。

1.入稿テキストについて

★ プレーンテキスト形式をお願いします。

★ 文章中の「数字」「アルファベット」「記号」は半角で入力して下さい。

★ 機種依存文字は使用しないで下さい。

「まる1」「ローマ数字(アルパイングレードによく使われる4級とか3級とかの表示)」「単位を示す記号(キロメートル、温度など)」は避けて下さい。OS(WindowsとMac)が違くと文字化けしますので元の記号の判別に時間がかかります。

★ コースタイムなどの矢印「→」「⇒」などを使用する場合は書式を統一して使って下さい。

こちらで半角スペースなどを削除するなどして手作業で統一しています。編集の仕事だとは思うんですが、基本テキストはご自分で校正して頂きたいと思います。記号の前後のスペースもできれば入れて欲しくないところです。

■ 本文中に作者の氏名を必ず入れてください。

【重要】文章の適当な場所に段落を作って、読みやすく書いて下さい。

2.データ送付について

★ データのファイル名

Macで受け取っている都合上15文字以上のファイル名は判別しません。最小限をお願いします。また、ファイル名は必ず「半角英数字」をお願いします。←わかります？日本語を使わないでくださいってコトです。スペースや「.」「/」「\」なども使わないでください。

例)090101mizuno.txt 090101mizuno01.jpg 090101mizuno02.jpg

日付+名前+ナンバリング+拡張子でよろしくです。

3.キャプション

★ キャプションは本文中に記述してください。

文章のどのへんに入れて欲しいかも、ご指定頂くと助かります。本文を読んで、写真を照らし合わせるのは、本人じゃないと結構大変なのです。文章中にわかるように指示してくださいね。

てなわけで、なるべく効率よく作りたいので、執筆されるほうもタイヘンだとはおもいますが、是非、よろしく願います。